

北米自由貿易協定 (NAFTA) 以後の カナダ・オンタリオ州の貿易に関する研究

栗原 武美子

目 次

- 1 はじめに
- 2 カナダとオンタリオ州の経済の特徴
- 3 カナダの貿易の特徴
- 4 オンタリオ州の貿易の特徴

1 はじめに

アメリカとカナダが2国間で結んだ米加自由貿易協定 (U.S. - Canada Free Trade Agreement) が1989年に発効し、5年後にはメキシコを含む3国間で北米自由貿易協定 (North American Free Trade Agreement, 以下 NAFTA と略記) が1994年に発効した。NAFTA が発効してすでに10年以上が経過しており、アメリカ、カナダ、メキシコの政治、経済、労働、環境など多方面にわたる影響について、既にさまざまな論評が行われている (MacDonald, Chambers and Smith, Clarkson, Irwin) が、まだ手付かずのまま残されている検討課題も多い。そこで本稿では、人口規模でも国内総生産 (GDP) でもカナダの10州と3準州の中では最大のオンタリオ州に焦点を当て、これまで実証研究のなされていない NAFTA の下での同州の貿易動向の特徴を明らかにすることを試みたい。

2 カナダとオンタリオ州の経済の特徴

カナダ経済はアメリカ経済と貿易や直接投資の面で密接な関係があるため、アメリカの経済動

向から大きな影響を受ける。アメリカの「ニューエコノミー」と呼ばれる 1990 年代の繁栄と、それに引き続く IT バブルの崩壊による 2001 年の実質 GDP のマイナス成長（『ARC レポート 2005：アメリカ』, pp. 78-81）は、カナダにも類似の経済動向をもたらした。すなわち、カナダの経済成長は 1992 年から 2002 年までの 10 年間に於いて年々 5 % 程度の安定した成長を遂げていた。2001 年、アメリカ経済の不振による輸出の停滞のため、カナダ企業の売上と収益は落ち込んだ。また、2001 年から 2003 年にかけて、カナダでもハイテク関連産業の設備投資は激減した。このため、2000 年のカナダの実質 GDP 成長率は 5.2 % であったが、2001 年には 1.8 % へと減少した（『ARC レポート 2005：カナダ』, p. 26）。

アメリカの実質 GDP 経済成長率は、2001 年の第 1 から第 3 四半期はマイナス成長であったが、第 4 四半期からはプラスに転じ、2002 年は 1.6 %、2003 年は 2.7 %、2004 年は 4.2 %、2005 年は 3.5 % と回復した（『ARC レポート 2005：アメリカ』, p. 90）。カナダの実質 GDP 成長率もその後、2002 年に 2.9 %、2003 年に 1.8 %、2004 年に 3.2 %、2005 年に 2.9 %¹⁾ と回復している。

2005 年のカナダの名目国内総生産（GDP）（支出ベース）は、市場価格で 1 兆 3,714 億 2,500 万カナダドル（以下 C ドルと略記）であった。同年、カナダの実質 GDP（支出ベース）は市場価格で 1 兆 1,577 億 500 万 C ドル（1997 年連鎖 C ドル）で、2005 年のカナダの実質 GDP 成長率は 2.9 % であった。一方、2005 年のアメリカの名目 GDP は 12 兆 4,558 億 US ドルで、実質 GDP は 11 兆 486 億 US ドル（2000 年連鎖ドル）であった²⁾。2005 年の平均為替レートは 1 US ドル = 1.212 カナダドル（『ジェトロ貿易投資白書：2006 年版』, p. 114）であったため、両国の名目 GDP を比較すると、カナダ経済はアメリカ経済の 11 分の 1 規模であった。

2005 年のカナダの輸出総額³⁾ は 4,361 億 9,500 万 C ドル、輸入総額は 3,807 億 6,000 万 C ドルで、貿易総額は 8,169 億 5,500 万 C ドルであった。同年のカナダの貿易依存度は 59.6 % と先進工業国の中でも依然として高い。しかも、同年、カナダからの輸出額の 83.9 %、カナダへの輸入額の 56.5 % がアメリカとの貿易で、アメリカへの貿易依存度も高いことがカナダ経済の 1 つの特徴となっている。

ここまではカナダ全体をマクロ指標でみたものである。カナダは 10 州と 3 準州から構成されており、それぞれの地域の政治、経済基盤、歴史、文化、人口規模は様々である。本稿では人口規模でも、経済規模でもカナダ最大の州であるオンタリオ州の特徴を挙げてみたい。

2005 年 7 月 1 日のカナダの人口は 3,229 万 9,500 人（表 1）で、オンタリオ州には最大の 1,255.8 万人（全体の 38.9 %）の人口が集中し、次は東隣のケベック州の 759.7 万人（23.5 %）であった。

1) カナダ統計局、<http://22240.statcan.ca/101/cst01/econ05.htm> より計算。

2) カナダの GDP については注 1 と同じ出典で、アメリカの GDP については <http://www.bea.gov/bea/dn/gdplev.xls> の出典による。

3) 輸出は再輸出の数字を含んでいる。

表 1 2005年のカナダの州別人口と実質国内総生産 (GDP) (1997年連鎖価格)

州名	人口		実質国内総生産(GDP)		1人当たりの GDP(Cドル)	失業率 %
	(千人)	%	(百万Cドル)	%		
ブリティッシュ・コロンビア	4,257.8	13.2	145,501	12.6	33,849	5.9
アルバータ	3,277.6	10.1	142,896	12.3	43,596	3.9
サスカチュワン	990.0	3.1	34,157	3.0	34,420	5.1
マニトバ	1,174.1	3.6	35,872	3.1	30,622	4.8
オンタリオ	12,558.7	38.9	483,962	41.8	38,534	6.6
ケベック	7,597.8	23.5	237,981	20.6	31,526	8.3
ニューブランズウィック	751.5	2.3	21,219	1.8	27,882	9.7
ノヴァスコシア	936.1	2.9	25,534	2.2	27,242	8.4
プリンス・エドワード・アイランド	138.2	0.4	3,437	0.3	24,862	10.8
ニューファンドランド	514.0	1.6	15,298	1.3	29,655	15.2
ユーコン準州	31.1	0.1	1,249	0.1	-	4.9
ノースウエスト準州	42.6	0.1	4,024	0.3	-	5.4
ヌナブト準州	30.0	0.1	875	0.1	-	-
カナダ	32,299.5	100.0	1,157,705	100.0	-	6.8

注：人口は2005年7月1日時点のもの
 カナダのGDPと各州のGDPの値の修正時期が異なるため、各州の合計値とカナダの値とは一致していない。
 資料：人口については<http://www40.statcan.ca/101/cst01/demo02a.htm>。
 カナダのGDPについては<http://www40.statcan.ca/101/cst01/econ05.htm>。
 各州のGDPについては<http://www40.statcan.ca/101/cst01/econ50.htm>。
 1人当たりのGDPについてはOECD Economic Surveys: Canada, Vol. 2006/10, p. 27.
 失業率についてはCANSIM Table 282-0055。

両州の人口を合わせると 62.4 % にのぼる。また、太平洋岸に面したブリティッシュ・コロンビア州（以下 BC 州と略記）とその隣のアルバータ州の人口も、それぞれ 425.7 万人（13.2 %）、327.7 万人（10.1 %）で、4 州の人口の合計はカナダ全体の 85.7 % に達する。

また、表 1 が示すように、2005 年のオンタリオ州の実質 GDP は 4,839.6 億 C ドルで、カナダ全体の 41.8 % を占めている。この数字は、同州はカナダの経済活動の中心地であることを如実に物語っている。オンタリオ州に続いて、ケベック州、BC 州、アルバータ州の実質 GDP は順に 2,379.8 億 C ドル、1,455.0 億 C ドル、1,428.9 億 C ドルで、それぞれカナダ全体の 20.6 %、12.6 %、12.3 % を占め、4 州の実質 GDP の合計はカナダ全体の 87.3 % であった。これら 4 州がカナダ経済を支えているといっても過言ではない。

2005 年の 1 人当たりの実質 GDP はアルバータ州が 43,596 C ドルで、10 州の中では最高額であった。次に、オンタリオ州の 38,534 C ドルであった。大西洋岸の 4 州、つまりニューブランズウィック州、ノヴァスコシア州、プリンス・エドワード・アイランド州、ニューファンドランド州の 1 人当たりの GDP はカナダの中では低く、20,000 C ドル台となっている。失業率をみると、カナダ全体では 6.8 % であったが、アルバータ州は 3.9 % で失業率が最も低く、オンタリオ州は 6.6 % とカナダ平均の 6.8 % よりやや低い程度であった。大西洋岸 4 州の失業率は、カナダの中では高く、8.4 % から 15.2 % を示している。

2003年から続いた2005年の原油高は、エネルギー輸出依存度が相対的に大きいアルバータ州やBC州の経済に好景気をもたらした。その結果が先の表1の指標で示される1人当たりの実質GDPの高さと失業率の低さとなってあらわれている。両州では、鉱物資源開発が活発化し、これらの分野での人手不足が深刻化している。オイルサンド開発の一部では、東部地域からの労働者の流入が進んでいるが、住宅供給が間に合わず、住宅価格と人件費の急騰が生じている（ジェットロ、『通商弘報』、2006年2月7日）。

オンタリオ州の経済動向の推移をみると、2001年第3四半期実質州内総生産は、年率マイナス3.3%となったが、第4四半期からは回復基調に転じた（ジェットロ、『通商弘報』、2002年6月21日）。2001年のアメリカの株式バブルの崩壊やIT過大投資の顕在化による景気後退の上、9月11日のテロは、アメリカとカナダの中でも経済面で密生に結びついたオンタリオ州の経済に大きな影響を与えた。後者のテロ事件では、アメリカとカナダの国境間輸送に影響が出た。また、航空・観光産業にもマイナスの影響が生じた。

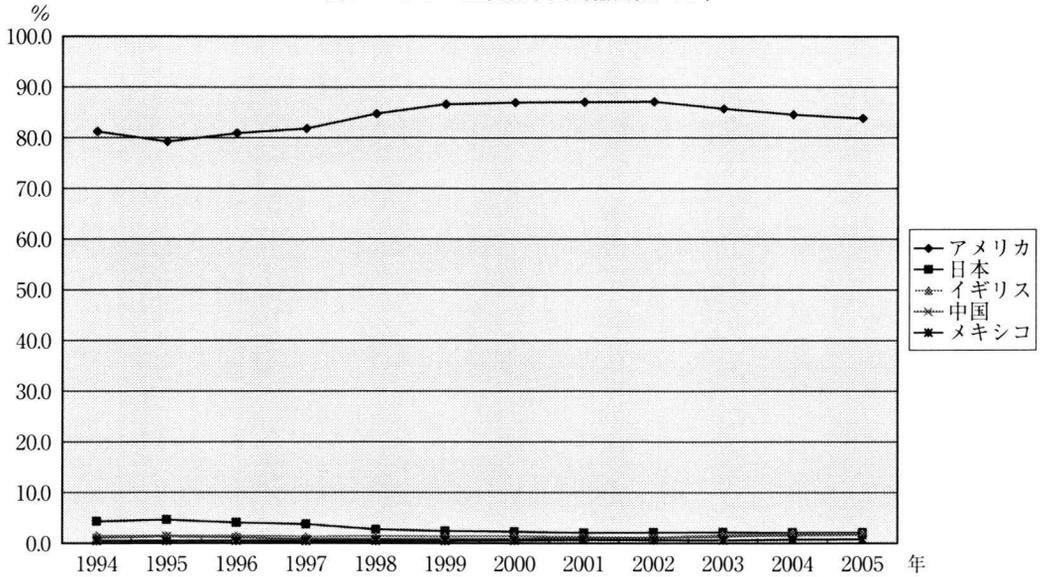
2002年のオンタリオ州経済は自動車産業の生産やその輸出が回復したため、州の景気は上向きに転じた（ジェットロ、『通商弘報』、2002年11月12日）、しかし、2003年には、イラク戦争の勃発やトロントで発生したSARSの影響で、輸送・観光関連産業に大きな被害が与えられた。また同年8月にはアメリカに端を発した大停電がカナダまで及び、一部の製造業者は生産活動の中止や減産を余儀なくされた（ジェットロ、『通商弘報』、2004年4月7日）。2003年から続く米ドルに対するカナダ・ドル高やエネルギー製品や原料価格の高騰、ならびにアジア諸国との競争は、自動車などの製造業に基盤を置いているオンタリオ州経済にはマイナスに影響しているが、アルバータ州の好景気の波及効果によって幾分その影響は緩和されている（*OECD Economic Surveys: Canada, Vol. 2006/10, p. 28*）。

3 カナダの貿易の特徴

この節では、カナダ全体の貿易の特徴について貿易相手国、貿易の品目の観点から明らかにしたい。

図1と図2はそれぞれ、1994年から2005年にわたるカナダの輸出相手国と輸入相手国の上位5ヶ国に対する輸出額と輸入額の比率の変化を示したものである。輸出面で見ると、NAFTA発効年の1994年にはカナダからアメリカへの輸出額の比率は81.2%であり、その後2002年の87.1%まで増加した。その後、やや減少したものの2005年のアメリカへの輸出額は依然として83.9%と、高い割合を占めている。また、メキシコへの輸出額は1994年には0.5%であり、金額的には増加しているものの、2005年の比率では0.7%とわずかに増加したのに過ぎない。

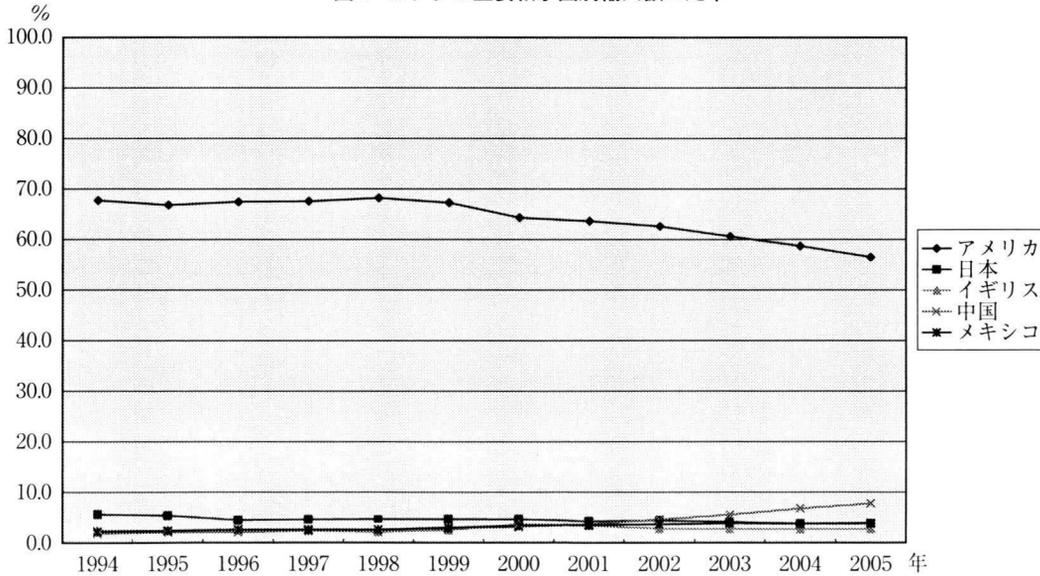
図1 カナダの主要相手国別輸出額の比率



注：輸出は再輸出の数値を含んでいる。

図1と図2の資料：Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."

図2 カナダの主要相手国別輸入額の比率



輸入面からみると、1994年時点のカナダのアメリカからの輸入額の比率は67.7%で、輸出額に占めるほどのアメリカへの集中度はみられない。その後、1998年には輸入額の比率は68.2%に達した。1999年から比率は減少へと転じており、2005年のアメリカからの輸入額の比率は56.5%となった。一方、NAFTA加盟国であるメキシコからの1994年の輸入額の比率は2.2%であったが、

徐々に伸び、2005年には3.9%となり、第3位となった。また、中国からの輸入額の比率は1994年には1.9%であったものが、2001年にはメキシコを、2002年には日本を追い越し、2005年には7.7%で第2位となった。

2005年、輸出額に関しては、カナダからアメリカへは3,657.4億Cドル（全輸出額の83.9%）で、第1位を占めていた。日本への輸出額は91.7億Cドル（同2.1%）で、1970年代からの第2位の地位を維持している。輸出国第3位はイギリスで、金額は82.5億Cドル、比率は1.9%であった。第4位は中国（71.0億Cドル、比率は1.6%）、第5位はメキシコ（33.6億Cドル、比率は0.7%）であった。

一方、2005年の輸入に関しては、カナダの輸入相手国第1位はアメリカで、金額は2,151.4億Cドル（全体の56.5%）であった。輸出ほどの集中はみられないものの、アメリカは輸入に関しても依然としてカナダにとって最も重要な貿易相手国である。1970年代から輸入に関して第2位の地位を長年占めていた日本は、2002年に中国に、さらに2005年にはメキシコに追い越され、2005年には145.9億Cドル（3.8%）で第4位となった。2005年、カナダの中国からの輸入額は第2位の295.1億Cドル（7.8%）、メキシコからの輸入額は第3位の147.8億Cドル（3.9%）であった。

カナダの貿易収支は、1994年は229.4億Cドルの黒字、2005年は554.3億Cドルの黒字で、1994年から2005年の12年間継続して貿易収支は黒字であった。

表2は1994年と2005年のカナダの主要な輸出品と輸入品を示したものである。カナダからの輸出品の第1位は1994年から2004年までは自動車（同部品を含む）であり、1994年にはカナダの輸出品の約4分の1を占め、表には示されていないが2004年までほぼ2割前後を占め、カナダからの輸出の最大品目であった。しかし、近年の原油の値上がりにより、西部のアルバータ州などからアメリカへの原油輸出が伸びたために、2005年には自動車輸出（783.4億Cドル）が18.0%と第2位に後退し、代わりに従来第2位であった鉱物性燃料の石油・天然ガス（880.3億Cドル）が輸出品目の第1位の20.2%を占めるに至った。

石油・天然ガスと自動車を除く2005年の主要な輸出品目には、一般機械（337.5億Cドル、7.7%）、遠距離通信機器やコンピューターを含む電気機器（205.2億Cドル、4.7%）、木材（202.7億Cドル、4.7%）や紙（153.5億Cドル、3.5%）、プラスチック製品（142.2億Cドル、3.3%）、航空機および部品（96.6億Cドル、2.2%）やアルミニウムとその製品（95.4億Cドル、2.2%）などがある。

カナダの主要な輸入品目についてみると、2005年の自動車の輸入額は657.5億Cドルであった。1994年から2005年まで一貫して自動車が第1位で、17%から20%を占めていた。カナダは1965年の米加自動車協定以来、アメリカとの自動車貿易が活発で、カナダで生産される自動車やその部品がアメリカへ輸出される一方、アメリカからも自動車や部品が輸入されている。また、ヨー

表2 カナダの主要輸出品と輸入品（通関ベース）

（単位：百万Cドル、%）

	輸出品					輸入品			
	1994		2005			1994		2005	
鉱物性燃料・石油 (27)	21,574	9.6	88,035	20.2	自動車 (87)	39,949	19.7	65,757	17.3
自動車 (87)	54,661	24.2	78,346	18.0	一般機械 (84)	37,898	18.7	62,226	16.3
一般機械 (84)	19,406	8.6	33,750	7.7	電気機器 (85)	25,052	12.4	37,576	9.9
電気機器 (85)	10,901	4.8	20,529	4.7	鉱物性燃料・石油 (27)	7,097	3.5	35,007	9.2
木材 (44)	14,492	6.4	20,279	4.7	プラスチック製品 (39)	6,119	3.0	13,669	3.6
紙 (48)	11,333	5.0	15,352	3.5	医療機器 (90)	6,635	3.3	11,395	3.0
プラスチック製品 (39)	4,660	2.1	14,228	3.3	医薬品 (30)	1,833	0.9	8,979	2.4
航空機および部品 (88)	3,173	1.4	9,662	2.2	鉄鋼 (72)	3,483	1.7	8,517	2.2
アルミニウム、製品 (76)	5,425	2.4	9,540	2.2	鉄鋼製品 (73)	3,898	1.9	8,513	2.2
家具 (94)	3,261	1.5	7,974	1.8	有機化学品 (29)	3,138	1.6	7,017	1.8
貴金属、装身具 (71)	4,172	1.9	7,387	1.7	家具 (94)	3,057	1.5	6,912	1.8
パルプ (47)	6,816	3.0	6,492	1.5	航空機および部品 (88)	1,953	1.0	6,467	1.7
その他 (上記以外)	65,805	29.2	124,621	28.6	その他 (上記以外)	62,624	30.9	108,725	28.6
合計	225,679	100.0	436,195	100.0	合計	202,736	100.0	380,760	100.0

注：カッコ内はHSコード。

輸出は再輸出の数値を含んでいる。

資料：Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."

ロッパや日本からの自動車も輸入されている。

2005年の自動車に続く輸入品では、一般機械が自動車と並ぶ622.2億Cドル（16.3%）、次いで電気機械の375.7億Cドル（9.9%）、鉱物性燃料・石油の350.0億Cドル（9.2%）であった。石油・天然ガスなどに関しては、カナダのアルバータ州からアメリカへ輸出される一方、オンタリオ州や東部の諸州はそれらをアメリカから輸入しており、カナダの東西の結びつきよりもアメリカとの南北の結びつきが強い。輸入品の第5位以下は、プラスチック製品（136.6億Cドル、3.6%）、医療機器（113.9億Cドル、3.0%）、医薬品（89.7億Cドル、2.4%）、鉄鋼（85.1億Cドル、2.2%）、鉄鋼製品（85.1億Cドル、2.2%）と続く。

以上、1994年から2005年までのカナダの貿易相手国、貿易金額と貿易品目から明らかとなった点は、NAFTAによってカナダからアメリカへの輸出面での関係の強化が一般的にみられること、特に自動車貿易においてそれが顕著であることである。と共に、メキシコからカナダへの輸入額も増加している。また、メキシコ以上に中国からの輸入額が飛躍的に伸びている。長年、金額的には小さかったものの、アメリカに次ぐ第2位の貿易相手国であった日本は、輸入に関してはメキシコと近年の経済成長がめざましい中国にその地位を奪われている。

4 オンタリオ州の貿易の特徴

カナダの貿易依存度は高いが、中でもオンタリオ州が輸出入ともカナダ貿易を推進している代表的な州である。表3はカナダの州別の輸出入額を表わしている。表3が示しているように、1994年のオンタリオ州の輸出額は1,151.5億Cドルでカナダ全体の51.0%を占めていた。その後も、オンタリオ州からの輸出額は首位を占め、2005年の輸出額は2,008.0億Cドルで、カナダ全体の輸出額の46.0%を占めていた。他の州では、ケベック州の輸出額は1994年から2004年までは第2位であったが、2005年になり輸出額の710.2億Cドル(16.3%)はアルバータ州の輸出額の812.1億Cドル(18.6%)に抜かれ第3位と、ケベック州とアルバータ州の順位が逆転した。BC州は1994年から2005年まで輸出額では第4位であった。アルバータ州の輸出額が伸びた大きな理由は、原油価格の高騰とアメリカの需要の増大によるもので、「カナダ産原油・天然ガスは、輸出のすべてが米国向けで、パイプラインによって運ばれている。」(ジェトロ、『ジェトロ貿易投資白書：2006年版』、2006年、p.115)ためである。

一方、オンタリオ州の輸入額は1994年1,301.3億Cドルで、カナダ全体の輸入額の64.2%を占めた。2005年にはこれが2,285.6億Cドルでカナダ全体の輸入額の60.0%を占めた。1994年から2005年にわたり常に60%台を占め、オンタリオ州の輸入額はカナダの中では首位であった。この12年間、輸入額については州の順位の変動はなく、第2位はケベック州(2005年には652.6億Cドルの17.1%)、第3位はBC州(352.9億Cドルの9.3%)、第4位はアルバータ州(164.4億Cド

表3 カナダの州別輸出額と輸入額

(単位：百万Cドル、%)

州名	輸出額				州名	輸入額			
	1994		2005			1994		2005	
オンタリオ	115.158	51.0	200.807	46.0	オンタリオ	130.135	64.2	228.561	60.0
アルバータ	23.507	10.4	81.219	18.6	ケベック	32.455	16.0	65.264	17.1
ケベック	41.081	18.2	71.026	16.3	ブリティッシュ・コロンビア	18.216	9.0	35.294	9.3
ブリティッシュ・コロンビア	24.041	10.7	35.551	8.2	アルバータ	6.645	3.3	16.449	4.3
サスカチュワン	7.642	3.4	14.081	3.2	マニトバ	5.279	2.6	11.794	3.1
ニューブランズウィック	4.333	1.9	10.723	2.5	ニューブランズウィック	3.263	1.6	8.002	2.1
マニトバ	4.762	2.1	9.854	2.3	ノヴァスコシア	3.335	1.7	6.990	1.8
ノヴァスコシア	3.066	1.4	5.815	1.3	サスカチュワン	2.899	1.4	5.600	1.5
ニューファンドランド	1.618	0.7	4.606	1.1	ニューファンドランド	440	0.2	2.671	0.7
ノースウエスト準州	166	0.1	1.687	0.4	ユーコン準州	16	0.0	77	0.0
プリンス・エドワード・アイランド	295	0.1	810	0.2	プリンス・エドワード・アイランド	49	0.0	54	0.0
ユーコン準州	8	-	11	-	スナプト準州	-	-	3	-
スナプト準州	-	-	4	-	ノースウエスト準州	4	-	1	-
カナダ	225.679	100.0	436.195	100.0	カナダ	202.736	100.0	380.760	100.0

注：輸出は再輸出の数値を含んでいる。

資料：Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>. "Trade Data Online."

ルの4.3%)であった。貿易に関しても、人口、実質GDPの集中がみられたオンタリオ、ケベック、アルバータ、BCの4州が中心となっている。石油や鉱物資源を大量に輸出しているアルバータ州の貿易収支は常に大幅な黒字となっている。

表4-1はオンタリオ州から主要輸出相手国への輸出額のシェアを示したものである。1994年から2005年まで輸出国第1位はアメリカで、しかもそのシェアはほぼ9割を占めている。同期間中、カナダ全体とアメリカの輸出額のシェアは最低79.2%(1995年)から最高87.1%(2002年)の間で推移しているのに対し、オンタリオ州とアメリカの輸出額のシェアは88.8%(1995年)から93.5%(1999年)の間で推移し、アメリカとの貿易の結びつきがカナダ全体よりも強いと言える。

2005年のオンタリオ州の第2位の輸出相手国はイギリスで、そのシェアは僅か2.3%であった。同年、オンタリオ州からNAFTA加盟国のメキシコへの輸出額のシェアは0.8%で、第3位であった。また、日本への輸出額のシェアは0.5%で、第6位であった。

表4-1 オンタリオ州から主要輸出相手国への輸出額のシェア (商品貿易、通関ベース)

(単位:百万Cドル、%)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
全世界への輸出額	115,158	131,047	139,681	153,239	171,859	195,567	207,079	201,720	206,496	189,099	198,871	200,807
アメリカ	90.2	88.7	89.8	90.4	92.2	93.5	93.3	93.1	93.4	91.4	90.6	88.8
イギリス	1.2	1.5	1.4	0.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.4	2.0	2.3
メキシコ	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.5	0.7	0.5	0.5	0.6	0.8
中国	0.6	0.6	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	0.5	0.7	0.7	0.7
ノルウェー	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.6	0.7
日本	0.5	0.6	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.5	0.5
ドイツ	0.6	0.8	0.9	0.6	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5
フランス	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.5
オーストラリア	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.4
スイス	0.5	0.3	0.5	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4

表4-2 オンタリオ州からアメリカの主要州への輸出額のシェア (商品貿易、通関ベース)

(単位:百万Cドル、%)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
アメリカへの輸出額	103,887	116,239	125,457	138,489	158,454	182,842	193,114	187,879	192,760	172,844	180,078	178,341
アメリカ	90.2	88.7	89.8	90.4	92.2	93.5	93.3	93.1	93.4	91.4	90.6	88.8
ミシガン	39.8	38.1	36.7	33.6	30.4	31.4	32.6	31.8	32.6	31.5	29.9	27.7
カリフォルニア	4.9	4.5	4.0	4.3	6.1	7.6	8.2	9.3	9.4	9.6	9.7	9.6
ニューヨーク	9.8	7.2	9.0	10.7	12.4	12.0	8.8	7.7	6.8	6.2	5.8	5.9
オハイオ	4.8	4.9	5.0	5.1	5.3	5.0	5.2	5.2	5.5	5.3	5.3	5.2
イリノイ	3.9	4.4	3.7	4.3	4.5	4.1	3.8	3.6	3.7	3.7	3.9	4.2
ペンシルヴァニア	2.2	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	2.9	3.0	3.0	3.0	3.3	3.4
テキサス	1.9	2.0	2.0	2.4	2.4	2.2	2.5	2.9	3.0	3.1	3.2	3.2
インディアナ	1.5	1.6	1.6	1.6	1.8	1.8	2.0	2.1	2.2	2.4	2.4	2.6
ジョージア	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.6	1.9	1.9
ニュージャージー	1.8	1.7	1.6	1.9	2.1	2.2	2.3	2.3	2.0	1.9	1.9	1.9

注: 輸出は再輸出の数値を含んでいる。

資料: Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."

表 4-2 は 1994 年から 2005 年までの、オンタリオ州からアメリカの主要州への輸出額のシェアを示したものである。同期間中、アメリカの中でも、ミシガン州への輸出額が第 1 位であることが特徴の 1 つである。1994 年にはオンタリオ州から全世界への輸出額の実に 39.8 % がミシガン州へ輸出され、そのシェアが徐々に減少したとは言え、2005 年には 27.7 % で、依然としてトップの貿易相手州である。また、1994 年から 2000 年まではニューヨーク州が輸出額に関して第 2 位の地位を占めていたが、2001 年から 2005 年にはその地位をカリフォルニア州に抜かれ、第 3 位となった。

2005 年時点で、オハイオ、イリノイ、ペンシルヴァニア、テキサス、インディアナ州への輸出額（シェアで言うと 5.9 % から 2.6 %）の方が、第 2 位の貿易相手国イギリスよりも輸出額（同 2.3 %）が多い点がある。これらの数字が指し示すことは、オンタリオ州の輸出は北米大陸でほぼ完結している様相を呈していることである。

表 5-1 はオンタリオ州への主要輸入相手国からの輸入額のシェアを示したものである。1994 年から 2005 年まで輸入国第 1 位はアメリカで、しかもそのシェアは 1994 年から 2003 年まで 7 割を占めており、2004 年と 2005 年になり若干減少し、2005 年では 66.9 % となった。同期間中、カナダ全体とアメリカからの輸入額のシェアは、最高値が 68.2 %（1998 年）と最低値の 56.5 %（2005 年）の間で推移した。一方、オンタリオ州とのそれらのシェア推移は、最高値の 76.4 %（1997 年）と最低値の 66.9 %（2005 年）であり、これらの比較からオンタリオ州の輸入額のシェアの方が同期間中、常に 8 % から 10 % 程度高い。輸出とならび輸入に関しても、カナダ全体よりもオンタリオ州の方がアメリカとの結びつきが強いことがわかる。

表 5-2 は 1994 年から 2005 年までの、アメリカの主要州からオンタリオ州への輸入額のシェアを示したものである。輸出額と同様に、アメリカの中ではミシガン州からの輸入額が首位である。しかし、ミシガン州からの輸入額は、1994 年の 18.0 % から 2005 年の 11.0 % へと減少しており、輸出額の比率と比較しても少なく、オンタリオ州からミシガン州への輸出ほどの結びつきの強さはみられない。アメリカの他の州では、この 12 年間に於いて、オハイオ、イリノイ、インディアナといった中西部と、東部のニューヨーク州からの輸入額が多く、輸出額でみられたような州による順位の大きな変更はみられなかった。

2005 年の輸入額についてみると、ミシガン州（11.0 %）とオハイオ州（7.7 %）の次に輸入額が大きいのは中国（6.6 %）とメキシコ（5.1 %）であった。オンタリオ州の輸入先については、輸出先ほどアメリカへの集中はみられず、むしろ中国やメキシコが上位の貿易相手国となっていることが明らかとなった。

また、表 4-1 と表の 5-1 からオンタリオ州と全世界との貿易収支を読み取ることができる。1994 年には 149.7 億 C ドル、2005 年には 227.5 億 C ドルと、この 12 年間継続してオンタリオ州側の貿

表5-1 オンタリオ州への主要輸入相手国からの輸入額のシェア (商品貿易、通関ベース)

(単位: 百万Cドル、%)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
全世界からの輸入額	130,135	143,921	149,726	176,389	194,466	211,612	227,158	215,371	224,753	210,173	220,567	228,561
アメリカ	76.0	75.1	75.8	76.4	76.2	76.0	73.8	72.8	72.5	71.5	69.1	66.9
中国	1.4	1.6	1.6	1.7	1.9	2.1	2.4	2.9	3.5	4.5	5.5	6.6
メキシコ	3.1	3.3	3.5	3.2	3.3	3.8	4.4	4.5	4.7	4.8	5.1	5.1
日本	5.1	5.1	4.1	3.7	3.8	3.7	3.7	3.3	3.1	2.9	3.3	3.7
ドイツ	1.7	1.8	1.6	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.7	1.9	2.0	2.1
イギリス	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.6	1.3	1.4	1.4	1.3
韓国	1.0	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	0.9	0.9	1.0	1.1	1.0
イタリア	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0
台湾	1.1	1.0	1.1	1.1	1.3	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0
フランス	0.6	0.7	0.8	1.0	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9

表5-2 オンタリオ州へのアメリカの主要州からの輸入額のシェア (商品貿易、通関ベース)

(単位: 百万Cドル、%)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
アメリカからの輸入額	98,838	108,062	113,419	134,665	148,236	160,701	167,538	156,686	162,992	150,203	152,293	152,974
アメリカ全体のシェア	76.0	75.1	75.8	76.4	76.2	76.0	73.8	72.8	72.5	71.5	69.1	66.9
ミシガン	18.0	13.7	13.8	13.8	13.6	14.4	13.4	13.0	13.5	12.9	12.1	11.0
オハイオ	7.2	8.1	8.1	8.6	9.0	9.0	8.4	8.7	8.9	8.5	8.0	7.7
ニューヨーク	5.7	6.5	6.3	5.9	5.9	5.7	5.5	5.3	5.0	4.9	4.8	4.6
イリノイ	4.7	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0
インディアナ	3.9	4.4	4.4	4.1	4.2	4.5	4.1	3.9	4.1	4.1	4.0	4.0
テキサス	3.0	3.6	3.3	3.5	3.7	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4	3.1	3.2
カリフォルニア	3.8	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8	3.2	3.2	3.1	3.0
ペンシルヴァニア	3.1	3.5	3.3	3.4	3.2	3.0	3.0	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7
テネシー	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	2.1	2.0	2.2	2.3
ケンタッキー	1.5	1.4	1.7	1.9	1.9	2.2	2.2	2.1	2.3	2.4	2.3	2.2

資料: Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."

易赤字が続いている。さらに、表 4-2 と表 5-2 からはオンタリオ州とアメリカ間の貿易収支が読み取れる。ここでは逆に、アメリカとの貿易の場合、1994 年には 50.4 億 C ドル、2005 年には 253.6 億 C ドルと、同期間中オンタリオ州側の貿易黒字が継続し、黒字幅も拡大している。この点からも、オンタリオ州にとってアメリカは不可欠の貿易相手国であることがわかる。

表 6 は 1994 年と 2005 年のオンタリオ州と最大の貿易相手国アメリカとの間の主要貿易品目を示したものである。オンタリオ州からの最大の輸出品は自動車(含む部品)で、1994 年では輸出総額の 45.0% (467.1 億 C ドル)、2005 年も 40.1% (715.3 億 C ドル) とその間ほぼ 4 割を占めている。次が一般機械で 1994 年の 127.4 億 C ドルから 2005 年の 181.8 億 C ドルと、この期間中約 1 割強の比率で推移し、これら 2 つのカテゴリーで輸出の半分を占めている。

カナダには自動車の国産メーカーは現在では存在せず、アメリカのビッグスリーやホンダ、トヨタ、CAMI (ゼネラル・モーターズとスズキとの合弁会社) など、外国の子会社が自動車製造を

表6 カナダ・オンタリオ州とアメリカ間の主要輸出品と輸入品（通関ベース）

（単位：百万Cドル、％）

	オンタリオからアメリカへの輸出品				オンタリオへのアメリカからの輸入品				
	1994		2005		1994		2005		
自動車 (87)	46,712	45.0	71,531	40.1	自動車 (87)	26,616	26.9	42,869	28.0
一般機械 (84)	12,748	12.3	18,187	10.2	一般機械 (84)	19,703	19.9	25,293	16.5
電気機器 (85)	4,101	4.0	9,104	5.1	電気機器 (85)	10,785	10.9	10,093	6.6
プラスチック製品 (39)	2,438	2.4	7,115	4.0	プラスチック製品 (39)	3,842	3.9	8,221	5.4
家具 (94)	2,177	2.1	4,724	2.7	鉱物性燃料・石油 (27)	930	0.9	5,714	3.7
紙 (48)	3,096	3.0	4,341	2.4	医療機器 (90)	3,336	3.4	4,520	3.0
鉱物性燃料・石油 (27)	1,085	1.0	3,705	2.1	鉄鋼 (72)	1,251	1.3	3,539	2.3
鉄鋼 (72)	2,294	2.2	3,675	2.1	紙 (48)	1,853	1.9	3,397	2.2
鉄鋼製品 (73)	1,855	1.8	3,362	1.9	鉄鋼製品 (73)	2,012	2.0	2,991	2.0
木材 (44)	2,042	2.0	2,976	1.7	ゴム (40)	1,564	1.6	2,618	1.7
医薬品 (30)	237	0.2	2,444	1.4	アルミニウム、製品 (76)	1,489	1.5	2,503	1.6
アルミニウム、製品 (76)	976	0.9	2,219	1.2	医薬品 (30)	753	0.8	2,440	1.6
貴金属、装身具 (71)	2,066	2.0	2,188	1.2	有機化学品 (29)	1,399	1.4	2,380	1.6
ゴム (40)	1,383	1.3	1,912	1.1	家具 (94)	1,564	1.6	2,317	1.5
医療機器 (90)	1,266	1.2	1,783	1.0	本、新聞 (49)	1,736	1.8	2,080	1.4
その他 (上記以外)	19,411	18.7	39,075	21.9	その他 (上記以外)	20,005	20.2	31,999	20.9
合計	103,887	100.0	178,341	100.0	合計	98,838	100.0	152,974	100.0

注：カッコ内はHSコード。

輸出は再輸出の数値を含んでいる。

資料：Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."

行っている。カナダの経済規模はアメリカ経済の11分の1であるため、カナダで生産されている自動車の84％は輸出向けであり⁴⁾、そのうちの96％はアメリカへ輸出されている⁵⁾。しかも、ビッグスリーの子会社が近年他州での工場閉鎖を行っているため、自動車の生産はオンタリオ州に集約される傾向にある。ホンダ、トヨタ、CAMIの自動車組立工場はオンタリオ州に立地しており、さらに、カナダにおける日本のトヨタの第2自動車組立工場がオンタリオ州に建設中である。このため、オンタリオ州からアメリカへ自動車の輸出は今後さらに一層活発になろう。

製造業の中心州の1つであるオンタリオ州からは、輸出品目上位3位以下も工業製品が占めている。すなわち、電気機器（2005年の金額で91.0億Cドル、全体の5.1％）、プラスチック製品（71.1億Cドル、4.0％）、家具（47.2億Cドル、2.7％）である。カナダ全体としての輸出品との相違は、石油・天然ガス（主としてアルバータ州からの輸出品）、航空機やアルミニウム（主としてケベック州からの輸出品）、木材（主としてBC州やケベック州）の品目で、これらはオンタリオ州の上位輸出品目としては上って来ない。

表6はまたオンタリオ州へのアメリカからの主要な輸入品目が示されている。輸入品について

4) Canadian Automotive Industry-Canada's Automotive Sector: An Investment Opportunity. <http://strategis.ic.gc.ca/epic/site/auto-auto/nsf/en/am01397e.html>

5) "Canada's Place in World Trade, 1990-2005." Canadian Economic Observer (March 2006). <http://www.statcan.ca/english/freepub/11-010-XIB/00306/feature.htm>

も自動車年第1位で、1994年には266.1億Cドル(26.9%)、2005年には428.6億Cドル(28.0%)であった。1994年から2005年の間も同品目の輸入は25%から29%のシェアであった。第2位は輸出品同様に一般機械で、2005年には252.9億Cドル(16.5%)、次いで電気機器の100.9億Cドル(6.6%)であった。第4位はプラスチック製品(金額で82.2億Cドル、5.4%)、第5位は鉱物性燃料・石油(57.1億Cドル、3.7%)であった。

オンタリオ州とアメリカ・ミシガン州との貿易の比率、さらにオンタリオ州の輸出入額に占める自動車や同部品の高い割合を総合すると、NAFTA以降ますます自動車製造においては両州は一体化が進んでいると言えよう。このことは、Gu and Sawchuk(2006)の調査においても、1998年から1999年にかけてオンタリオ州が他のカナダの州と比較しても、一番アメリカと一体化しており、最も便益を受けた州であったことが証明されている。同期間中、オンタリオ州の製造業従事者の実質賃金上昇率が12%であったのに対し、ケベック州は僅かに1.0%、西部カナダでは0.8%、大西洋岸諸州では0.4%であったに過ぎなかった。

以上の分析から、オンタリオ州とアメリカ、中でもミシガン州との自動車貿易を中心に、NAFTA以後のオンタリオ州とアメリカとの経済的統一化が、少なくとも貿易面においてみられることが実証された。しかし、NAFTAは自由貿易を促進するだけでなく、直接投資をも含む包括的な協定であるから、オンタリオ州とアメリカやメキシコとの経済統合に関する投資面からの検証も残された課題の1つである。また、カナダの各州は独自の経済基盤に基づき、貿易においても投資においても、それぞれ重要な相手国や地域、またアメリカの各州との結びつきの程度も異なっている。特に、カナダ経済の牽引役を果たしているケベック州、アルバータ州、BC州の貿易・投資が北米全体の経済統合に具体的にどのように貢献しているかを解明することも今後の検討課題である。

参考文献

- 栗原武美子 [2006], 「日本の対加直接投資の州別の特徴」, 「カナダにおける日本の海外直接投資と地域通貨」(平成14年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書・丸山真人研究代表), pp. 1-58。
- 佐々木潤 [1994], 『一体化する北米経済: NAFTA時代の到来』, 日本貿易振興会。
- 世界経済情報サービス(ワイス) [2005], 『ARCレポート 2005: カナダ』。
- 世界経済情報サービス(ワイス) [2006], 『ARCレポート 2005: 米国』。
- 日本貿易振興会 [1995], 『1995年ジェトロ白書・貿易編: 世界と日本の貿易』。
- 日本貿易振興機構『通商弘報』, 各号(日刊, 2004年4月1日よりWeb配信に変更)。
- 日本貿易振興機構 [2003], 「NAFTAにくみ込まれるカナダ」。

- 日本貿易振興機構 [2006], 『ジェトロ貿易投資白書：2006年版』。
- 高橋俊樹 [2005], 『カナダの経済発展と日本：米州地域経済圏誕生と日本の北米戦略』, 明石書店。
- 春田素夫・鈴木直次 [2005], 『アメリカの経済：第2版』, 岩波書店。
- Chambers, Edward J., and Peter H. Smith, eds. [2002] *NAFTA in the New Millennium*. La Jolla and Edmonton: Regents of University of California and University of Alberta Press.
- Clarkson, Stephen. [2002] *Uncle Sam and Us: Globalization, Neoconservatism, and the Canadian State*. Toronto and Washington D.C.: University of Toronto Press and Woodrow Wilson Center Press.
- Curtis, John M., and Aaron Sydor. [2006] *NAFTA@10*. Ottawa: Minister of Public Works and Government Services Canada.
- Gu, Wulong, and Gary Sawchuk. [2006] "How Are Canadian Regions Adjust to a Larger and More Integrated North American Market?" Economic Analysis Research Paper Series, No. 39. Ottawa: Statistics Canada.
- Industry Canada. [2005] *Semi-Annual Automotive Circular: January to December, 2004*. Ottawa: Industry Canada.
- Irwin, Douglas A. [2005] *Free Trade Under Fire, 2nd ed.* Princeton: Princeton University Press.
- Japan Automobile Manufacturers Association of Canada (JAMA Canada). [2005] *A Short History of the Japanese Automotive Industry in Canada*. Toronto: JAMA Canada.
- Kurihara, Tamiko. [1995] "The Free Trade Agreements and *Sogo Shosha* in Canada." *Toyo Economic Studies*, No. 20, pp. 313-337.
- MacDonald, L. Ian, ed. [2000] *Free Trade: Risks and Rewards*. Montreal and Kingston: McGill-Queen's University Press.
- OECD [2006] *OECD Economic Surveys: Canada, Vol. 2006/10*.
- Canadian Automotive Industry- Canada's Automotive Sector: An Investment Opportunity, <http://strategis.ic.gc.ca/epic/site/auto-auto/nsf/en/am01397e.html>
- "Canada's Place in World Trade, 1990-2005," Canadian Economic Observer (March 2006), <http://www.statcan.ca/english/freepub/11-010-XIB/00306/feature.htm>
- Government of Ontario, <http://www.fin.gov.on.ca/english/economy>
- Industry Canada, <http://strategis.ic.gc.ca>, "Trade Data Online."
- Statistics Canada, CANSIM tables.

Characteristics of Trading Activities of Ontario, Canada, Since the North American Free Trade Agreement

Toyo University
Tamiko Kurihara

Abstract

In 1989 the US and Canada Free Trade Agreement came into effect. Five years later, in 1994, the North American Free Trade Agreement (NAFTA), which was the most comprehensive free trade pact signed by the United States, Canada and Mexico, came into force.

Historically, Canada has had close economic relationships with the United States through trade and direct foreign investment. This paper focuses on the characteristics of Ontario's trading activities in regard to volume of exports and imports, trading partners and trading commodities since 1994 and seeks to identify possible NAFTA effects.

In 2005 Canada's total exports was Canadian \$ 436 billion, of which 83.9% was directed to the US. The export ratio to the US was 81.2% in 1994 with the peak of 87.1% in 2002. By contrast, in 2005 Canada's total imports was C\$ 380 billion, of which 56.5% came from the US. This 2005 import ratio with the US represents a decline of 67.7% since 1994.

Between 1994 and 2004, automobiles and auto parts were the top Canadian export commodities, comprising from 20 to 25% of the total exports. With the increase in oil price, they were replaced by oil and natural gas (20.2%) in 2005. At the same time, automobiles and auto parts have been the top import commodities since 1994, consisting of 17 to 20% of the total. Automobiles and auto parts have been principal trading goods since the US-Canada Auto Pact in 1965.

In 2005, Ontario had a population of 12.5 million (38.9% of the total Canada) and its gross domestic product (GDP) was C\$ 484 billion (41.8%). Ontario exported C\$ 200 million (46.0%) and imported C\$ 228 million (60.0%). As the largest province, based on its population and GDP, Ontario has carried out a significant portion of the Canadian trade.

The US has been the largest trading partner for Ontario in terms of both exports and imports. Ontario's trade dependency on the US was much higher than that of the rest of Canada. In 2005, 88.8% of Ontario's exports was directed to the US, while 66.9% of its imports came from the US. At state level, Michigan has been the primary trading partner.

In 1994, 39.8% of the total Ontario's exports to the world (not to the US) was directed to Michigan, although its proportion decreased to 27.7% in 2005. Ontario's imports from Michigan was 18.0% of the total imports from the world in 1994, and its proportion slightly declined to 11.0% in 2005. Major export and import commodities between Ontario and the US have been automobiles and auto parts. Ontario is much more integrated with the US than the rest of Canada, and it has been one of the principal beneficiaries under the NAFTA regime.